

(別紙様式1)

団体名	熊谷市ほたるを保護する会
-----	--------------

事業実績報告書 (平成26年度)

1 助成金名	「スタート助成金」	「チャレンジ助成金」
2 事業名称	自然発生するゲンジボタルを市民と一体となって保護し、観光資源にする	
3 交付決定助成金額	300,000 円	
4 助成事業に要した経費の額	545,001 円	
5 助成金要望額	300,000 円	
6 助成事業の成果	(1) 助成事業の目的達成度	<p>ホタルガイドボランティアのレベルアップ研修を8回開催し、ボランティアの人数が増加したとともに、ボランティア内容も充実したものになった。</p> <p>また、看板の製作過程で江南地区3校の生徒にホタル模型製作等で参加してもらい、ホタル保護への参画意識を共有できた。</p> <p>看板の除幕式をこうなん祭りの開催に合わせたことで、更なる認知に繋がり、看板がホタル見学のシンボリック的存在に一步近づいた。今年のホタル祭りで真価を！</p>
	(2) 助成事業の成果の現われ度	<p>看板の設置場所は市民の多くの人達が毎日、通勤、通学、散歩や周辺施設の利用時に通る場所で、多くの方が看板の前で足を止めていることからホタルに対する認知度は日増しに高まり、市民ぐるみでのホタル保護に繋がると確信している。看板の掲示パネルは5枚あり、定期的に差換えも行うので、それも効果的だと考えられる。また、子供たちへの啓発活動としてホタルレンジャー活動や講習会等を実施したが、大変好評であった。</p>

	<p>(3) 助成事業の 成果の具体的 内容</p>	<p>ホタルガイドボランティアのレベルアップ研修により、ガイドボランティアの数が4人から27人に増加した。昨年11月23日に恒例の清掃活動を実施したが、例年では10名程度の参加者が、25名に増加したことは、ホタルに対する関心が高まった結果だと考えられる。ガイド用の半纏についての希望者が殺到し、ガイド研修修了者25名に貸与した。</p>
<p>7 成果の自己評価</p>	<p>看板の設置やガイドボランティアのレベルアップにより、今まで以上により多くのことを伝えられるようになり、ホタルに対する興味・関心が高まってきていると感じている。</p> <p>江南中学文化祭での講習会や高校生の体験学習会の講演が好評で、子供達のホタルの正しい知識・保護に対する理解も進んでおり、今後も他校への展開を検討している。今年6月のほたる祭り前後の観光客数やガイドに対する評価が大変楽しみである。</p>	

(別紙様式1)

団体名	熊谷健康づくりウォーキングクラブ
-----	------------------

事業実績報告書 ( 26 年度)

1 助成金名	「スタート助成金」 「チャレンジ助成金」
2 事業名称	クリーンウォーキング
3 交付決定助成金額	118,000 円
4 助成事業に要した経費の額	157,218 円
5 助成金要望額	117,000 円
6 助成事業の成果	(1) 助成事業の目的達成度 クリーンウォークを2回実施できた。 モデルコースを2本設定できた。 意見交換会を開催できた。 (90%)
	(2) 助成事業の成果の現われ度 クリーンウォーキングの参加者が合計25名。 おすすめのウォーキングコースは、設定したが、その利用についてPRが十分ではなかった。 (80%)
	(3) 助成事業の成果の具体的内容 ・平成27年2月28日立正大学において、約10名の参加者による意見交換会を開催し、ごみの多い場所について、原因等について共通認識を得ることができた。今後の散乱ごみ解消に向けて準備ができた。
7 成果の自己評価	市内においてクリーンウォーキングの必要性が認知されたこと、立正大学や熊谷市の協力関係が構築できたことなど当初の目的が実現できたので、ほぼ良好であったと自己評価している。

(別紙様式1)

団体名	ノルディックウォーク熊谷
-----	--------------

事業実績報告書 (平成 26 年度)

1 助成金名	「スタート助成金」 「チャレンジ助成金」	
2 事業名称	ノルディックウォーク講習会	
3 交付決定助成金額	100,000 円	
4 助成事業に要した経費の額	197,612 円	
5 助成金要望額	100,000 円	
6 助成事業の成果	(1) 助成事業の目的達成度	・活動人員の増 目標 40 名に対し 3 月末会員数 38 名 (入会見込み 7 名含む) 目標達成率 95% ・指導員の養成 目標 1 名 資格取得者 1 名 目標達成率 100%
	(2) 助成事業の成果の現われ度 (アンケート回答者 21 名の結果より)	① ノルディックウォークの習慣化が図られ、肩こりや腰痛が軽減された。(10 名) ② 運動の習慣化により市のメタボ検診の結果改善が見られた。(5 名) ③ 会員同士の交流により、新しい仲間が出来て生きがいが醸成された。(19 名)
	(3) 助成事業の成果の具体的内容	① 合同ウォークの定例開催 (第一・第三水) 4 月～9 月までの開催回数は 11 回延べ 130 名が参加 ② 10 月～3 月は第二・第四土曜日を追加実施した結果、開催回数は 23 回延べ 314 名が参加してノルディックウォークの定着化が図られた。
7 成果の自己評価	・ノルディックウォークの定着化については初期の目標を達成出来たので、今後はさらに認知度を向上させ、活動人員を増やし中高年の健康増進を図る	

(別紙様式1)

団体名	熊谷観光ボランティアガイドの会 くまがい探偵団
-----	-------------------------

事業実績報告書 (平成26年度)

1 助成金名	「スタート助成金」 チャレンジ助成金
2 事業名称	熊谷市内を対象とする観光ボランティアガイド組織を上げる
3 交付決定助成金額	100,000円
4 助成事業に要した経費の額	163,939円
5 助成金要望額	100,000円
6 助成事業の成果	(1) 助成事業の目的達成度 郷土熊谷の歴史・史跡・人物等を掘り起こし、成果を市民および熊谷市を訪れる観光客に案内おすることを目的に次の事業を行った ① 第七回ニャオざねまつりに参加。ミニ観光ガイド開催 ② 平山家を活用したイベントへ参加 ③ さいたま市シニアユニバーシティ北浦和校の星川ガイド実施。いきがい大学校友会31期生を星川観光ガイド実施9名 ④ 「活動の足跡展」へ参加、市民活動支援センター、熊谷市役所ロビー展示を行い自事業の周知を計った。 ⑤ 星溪園観光ガイドを12月7日より開始。延べ8回開催。 ⑥ 商業観光課と共催したJR東日本「駅からハイキング」事業にて万平公園さくら観光ガイドを実施。 ガイド者7名参加。案内者45名、観光PR120名実施。 ⑦ 直実市民大学生を対象とした「熊谷堤さくらウォーキング」で観光ガイド実施。 結果として、100%に近い事業を実施できた。
	(2) 助成事業の成果の現われ度 ・観光ボランティアガイドの育成を目的とした研修会を4回開催。観光ガイドを17名育成した。 ・この成果より26年12月より星溪園の定例観光ガイド(2回/月)が実施できた。併せて、観光者を対象にアンケートを行い、ガイド事業に反映させた。

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・星溪園の史跡に案内板を取り付け、来園者へ観光情報を提供した。</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 観光ボランティアガイド団体を4月8日に正式に設立した。(会員数17名)</li> <li>2. 観光ガイド箇所をマップとしてまとめ発行した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・中山道いにしえコース、星川散策コース、星溪園観光コース、旧熊谷堤コース、行田～熊谷荒川堤ウォーキングコースの設定。</li> </ul> </li> <li>3. 児童、生徒を対象とした観光教育用DVDを作成。平成27年度に配布予定</li> <li>4. 久下小学校へ久下郷土カルタを活用した観光ガイドの提案を申し入れ。</li> <li>5. 年間をとおして、観光ガイドを実施した。 <ol style="list-style-type: none"> <li>①第七回ニャオざねまつりに参加。ミニ観光ガイドを実施</li> <li>②平山家を活用したイベントへ参加</li> <li>③さいたま市シニアユニバーシティ北浦和校の星川ガイド実施</li> <li>④「活動の足跡展」へ参加、市民活動支援センター、熊谷市役所ロビー展示を行い自事業の周知を計った。</li> <li>⑤星溪園観光ガイドを12月7日より開始。延べ8回開催。</li> <li>⑥JR東日本「駅からハイキング」事業へ参加。(万平公園さくらガイドを実施) H27.3.28実施</li> <li>⑦直実市民大学生を対象とした「熊谷さくら堤ウォーキング」を開催。H27.3.31実施</li> </ol> </li> </ol>
7 成果の自己評価	(3) 助成事業の成果の具体的内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成26年度ガイド事業として星溪園観光ガイドを12月より定期的で開催、市内に観光拠点を設置できた。この結果より、熊谷市街地観光を充実させることができた。(平成26年12月～平成27年3月) <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内観光者案内 47名、市外観光者案内47名 計94名</li> <li>・ボランティアガイド人数 平均16名/月</li> </ul> </li> <li>2. 他団体と共催した観光ガイドを計画通り実施できた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・JR東日本「駅からハイキング」さくら祭りにあわせ、旧熊谷堤の観光案内を実施(案内数45人)</li> </ul> </li> <li>3. 「平山家を活用して楽しむ会」へボランティア協力 <ul style="list-style-type: none"> <li>・26年度で3回参加(4/20.6/7.10/4)</li> </ul> <p>以上の活動より多くの市民へ観光情報を提供するとともに熊谷市の観光イメージアップに寄与できた。</p> </li> <li>4. 27年度は熊谷市全域を対象として観光・グルメを総合的に取り込んだ観光コースを設定、具体化したい。また、観光ガイドの養成講座を開催し近年開催のイベントに対応できる観光ガイドを育成して行く。</li> </ol>

(別紙様式1)

団体名	マルチ・カルチャー・コミュニケーション (MCC)
-----	---------------------------

事業実績報告書 ( 26 年度)

1 助成金名	「スタート助成金」 「チャレンジ助成金」	
2 事業名称	国際文化交流によるグローバルな子育てをしたいファミリーのサポート	
3 交付決定助成金額	100,000 円	
4 助成事業に要した経費の額	197,876 円	
5 助成金要望額	100,000 円	
6 助成事業の成果	(1) 助成事業の目的達成度	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 専門家を招いての子育て相談・母乳相談を通し子育てに対する悩みを解決。 ストレスレスな子育てサポート達成。</li><li>・ 親子英会話教室にて使える英会話を実践、国際社会のニーズに対応する人材育成サポート達成。</li><li>・ ハロウィンやイースターなどのイベントを英語の歌や本、海外のゲーム、アートを通して親子で楽しく異文化交流を達成。</li></ul>
	(2) 助成事業の成果の現われ度	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 日常の悩みから深刻な悩みまで、子育て相談、母乳相談を専門家のカウンセリングを通して母子の心と体の健康をサポート出来た。</li><li>・ 英会話教室の中で英語に慣れ親しむと同時に外国の文化や習慣なども学ぶ事ができた。</li><li>・ イベントを通じて外国の文化を英語で慣れ親しみ体験する事ができた。</li></ul>

	<p>(3) 助成事業の 成果の具体的 内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て相談、英会話教室、イベントを通して多くの参加者があり、その中からメンバーが増え今後の活動を多様化できる人材がそろってきた。</li> </ul> <p>これらイベントや英会話教室は反響があり、 『親子で楽しめたのでまた参加したい。』 『友達を誘ってまた是非きたい。』 『英語の苦手意識がなくなり楽しめた。』 など、沢山の前向きな感想を頂いた。</p>
<p>7 成果の自己評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画したイベントなどから 238 人の参加者があり国際色豊かなメンバーが増えた。</li> <li>・英会話教室にて外国の文化に興味を持ち親しみを感じるサポートが出来た。</li> <li>・専門家による子育て相談、母乳相談を通して地域住民の心のケアに貢献出来た。</li> </ul>	